

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	213	施策	消防・救急救命体制の充実
管理事業	消防事業	所管部局	消防本部

1	所管 室課	総務予防室	事業名	消防総務事業			
事業概要							
消防総務、消防職員教育、訓練充実							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【消防総務】 庁舎設備等の保守点検、光熱水費、感染症予防のための各種予防接種、職員の健康診断及び採用試験等の消防・救急体制を維持するために予算を執行した。 【消防職員教育・訓練充実】 多種多様な災害現場等に対応するため、必要な研修や教養への派遣を実施し、スキルアップを図った。 消防大学校、大阪府立消防学校、大阪市消防局高度専門教育訓練センター等に延べ84名派遣した。			決算額 (千円)	145,374	178,997	192,955	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割 ☐ 有効性 ■ 効率性 ☐ 公平性 ☐ 持続可能性
			一般財源 の 比率(%)	93.3	94.1	94.1	
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				今後の実施計画 の方向性・内容
			安心安全なまちづくりのために、必要な資格取得・教養への参加を継続的に実施し、消防・救急体制を維持するため、継続的に推進していく必要がある。 また、内部管理の事業が多く数値化しにくいところが多いが、効率化、コスト削減等を意識しながら事業を進める必要がある。				継続 引き続き、効率化、コスト削減等に努める。

2	所管 室課	総務予防室	事業名	消防団運営事業			
事業概要							
消防団運営							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【消防団運営事業補助金の交付】 団本部、各分団、班の消防団の運営にかかる補助対象事業に対し、補助金を交付した。 【消防団 出動件数】 火災出動 167件、訓練出動 352件、警戒出動 205件 【消防団員の処遇改善】 消防団員の活動しやすい環境整備のため休団について吹田市消防団条例に明文化するよう進めた。 【女性消防団員の活動環境整備】 女性団員が所属する詰所に女性用トイレを整備した。 【消防団員の入団促進】 本市で実施される各種イベントに消防団ブースを設け、本市消防団の魅力伝えることで、消防団への入団を促進した。 消防団員入団実績 9名（令和5年度中）			決算額 （千円）	43,076	50,488	59,450	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率（%）	90.3	93.0	89.3	■ 有効性 ☐ 効率性 ☐ 公平性 ☐ 持続可能性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				今後の実施計画 の方向性・内容
			近年は少子高齢化に伴う若年層の減少、就業構造の変化、地域奉仕精神の希薄化などにより、消防団員の減少に歯止めがかからず、社会問題となっている。今後はこれまで以上に消防団員の処遇面等を改善するとともに、消防団への加入を促進して、消防力の向上に努める。 また、全国的に多発している大規模な自然災害に対応すべく、消防団装備の充実強化を図る必要がある。				継続 引き続き、消防団への加入促進のため、広報活動に努める。

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	213	施策	消防・救急救命体制の充実
管理事業	消防事業	所管部局	消防本部

3	所管 室課	総務予防室	事業名	消防庁舎等管理事業			
事業概要							
消防庁舎等管理							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
南消防署南正雀出張所移転建替工事設計業務 南消防署南正雀出張所建設工事 南消防署南正雀出張所建設工事監理業務 （仮称）北消防署北千里出張所建設ほか工事設計業務 東消防署大規模改修及び昇降機設置工事設計業務 （仮称）北消防署北千里仮出張所建設ほか工事業務 旧南消防署南正雀出張所解体撤去工事			決算額 （千円）	38,104	85,123	613,056	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率（%）	73.1	80.8	84.9	☐ 有効性 ■ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題			☐ 公平性 ☐ 持続可能性	今後の実施計画 の方向性・内容
			災害対応拠点である消防庁舎の維持管理のために、必要最低限の補修を実施しており今後も継続し実施していく必要がある。 大規模改修については、消防施設という特性上、使用を継続しながらの工事となるため、工事期間が長くなるとともに費用面で効率性に課題がある。			継続 消防庁舎の維持管理のため、引き続き実施していくよう努める。	

4	所管 室課	総務予防室	事業名	北部消防庁舎等複合施設建設事業（消防庁舎）		
事業概要						
北部消防庁舎等複合施設建設（消防庁舎）						
活動実績		年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【北部消防庁舎等複合施設建設工事】 令和3年度から令和6年度にかけて、北消防署、中消防庁舎、教育センター及び土木部庁舎等の各機能を集約した建設工事を行っており、消防機能については令和6年3月8日から運用を開始した。 【南千里庁舎事務所棟解体撤去工事】 令和5年度から令和6年度にかけて、北部消防庁舎等複合施設建設工事の関連工事として、南千里庁舎事務所棟の解体撤去工事を行っている。 【北部消防庁舎等複合施設建設工事監理業務】 令和3年度から令和6年度にかけて、北部消防庁舎等複合施設建設工事及び南千里庁舎事務所棟解体撤去工事の監理業務を行っている。		決算額 （千円）	327, 441	623, 667	3, 872, 362	※課題があるものは■ ■ 市民ニーズ、社会的役割
		一般財源 の 比率（%）	14. 4	0. 4	2. 3	☐ 有効性 ☐ 効率性
		事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題			☐ 公平性 ■ 持続可能性	今後の実施計画 の方向性・内容
		災害時の重要な役割を果たす施設として早急な整備が必要であるため、着実に事業を進めていかなければならない。 現状の署所配置では、南千里地域が消防力の弱い地域の一つであることから、北部消防庁舎等複合施設の整備を行い、千里ニュータウンをはじめ、市内消防力の強化をはかる必要がある。			継続 引き続き、事業を着実に進める。	

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	213	施策	消防・救急救命体制の充実
管理事業	消防事業	所管部局	消防本部

5	所管 室課	総務予防室	事業名	予防事業			
事業概要							
防火意識普及啓発、予防査察・自主防火管理充実、自主防火組織育成強化							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【防火作品（図画・標語）の募集】市内の小・中学校の児童・生徒から募集する。 令和5年度防火作品応募数 防火図画 320作品 防火標語 192作品 【住宅防火訪問】春と秋の火災予防運動週間に合わせ住宅防火訪問を実施し、併せて住宅用火災警報器の設置率調査を行っている。 令和5年度住宅防火訪問世帯数 2,875世帯 令和5年度住宅用火災警報器の設置率 84.0% 【消防音楽隊】地域に根差した身近な公的音楽隊として、防火防災に係る広報や演奏を通じて広く市民に防火思想の普及を図る。 ※令和5年度消防音楽隊 隊員数 29名 演奏実績 12回 【予防査察】防火対象物数 11,040 危険物施設数 263 保安3法施設数 329（各施設数は、令和5年度末現在）に対して定期的に立入検査を実施し、関係者の自主防火管理意識の高揚を促す。 ※令和5年度査察実績 3,655件 【吹田市家庭防火クラブ】 家庭からの火災発生を防止するために知識及び初期消火方法等の技術の習得や研修会を実施。 ※令和5年度 家庭防火クラブ会員数等 30クラブ 会員数 276名 【幼年消防クラブ】各種の行事において防火思想の普及啓発と火育を通して安心安全な都市（まち）づくりに寄与することを目的として結成されたもの。 令和5年度幼年消防クラブ会員数等 34クラブ 6,514名			決算額 （千円）	2,345	12,122	2,582	※課題があるものは■ ■ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率（%）	100.0	100.0	100.0	□ 有効性 ■ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				□ 公平性 □ 持続可能性
			住宅防火訪問等を通して防火意識の普及と火災予防の推進を図る。 繰り返し各施設への査察を実施し、現地指導の充実と自主防火管理体制の確立を図り、事故がない状況を継続していく。 家庭防火クラブは火災予防の知識と消火器の取扱い技術の習得や研修会を通じて隣保協力体制と連帯意識の高揚を図る。幼年消防クラブは、幼年期から火災に対する正しい知識を身につけて火遊びによる事故の防止と防火意識の教育・普及を図る。			今後の実施計画 の方向性・内容	
						継続	
						引き続き、火災予防 事業の継続に努める。	

6	所管室課	警防救急室	事業名	救急事業			
事業概要							
救急活動、救急救命士資格取得推進、高規格救急自動車等資器材整備、応急手当普及啓発、救急業務体制整備							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【救急活動】 令和5年中 救急出動件数 23,149件 救急搬送者数 20,622名 【救急救命士資格取得推進】 救命士養成課程派遣人数 令和5年度 5名 【高規格救急自動車等資器材整備】 救急車更新（北第1救急車、南第2救急車）、新規購入（正雀救急車）に伴う資器材整備及び維持管理目的での保守点検など。 【応急手当普及啓発】 救命講習受講者数 令和5年度 9,118人 【救急業務体制整備】 検証会議 年12回、症例検討会 年2回、近畿救急医学研究会などの職員派遣。			決算額 （千円）	24,388	24,902	26,129	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率（%）	100.0	100.0	100.0	☐ 有効性 ■ 効率性 ☐ 公平性 ■ 持続可能性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題			今後の実施計画 の方向性・内容	
感染対策資器材の使用数増加及び救急出動件数の増加対応のため、消耗品購入費の削減は実施困難である。 救命講習受講者数を増加させるために、講習内容の見直し及び受講手続きの簡素化を行ったところである。また、市職員を対象とした救命講習を実施し、職員の応急手当に関する知識、技能の向上を図っている。							
						継続	
						応急手当普及啓発活動の評価、検証を実施。	

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	213	施策	消防・救急救命体制の充実
管理事業	消防事業	所管部局	消防本部

7	所管 室課	警防救急室	事業名	救助事業		
事業概要						
救助活動、救助資器材等整備						
活動実績		年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
火災や救助等の通常災害に加え、CBRNE（C＝化学 B＝生物 R＝放射性物質 N＝核 E＝爆発）・テロ等の特殊災害、豪雨などによる土砂災害、地震をはじめとする大規模自然災害等から要救助者を安全・確実・迅速に救助するため、各種救助資器材の取扱いや救助技術を練磨するとともに、救助活動に対する幅広い知識と高度な技術を習得するために必要とされる専門的な教育による資格の取得や各種研修への参加を実施した。 また、災害現場における救助活動に必要な資器材の整備を実施した。		決算額 (千円)	4,938	12,317	6,009	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
		一般財源 の 比率(%)	100.0	99.9	99.8	☐ 有効性 ☐ 効率性
		事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題			☐ 公平性 ■ 持続可能性	
		災害の多様化に伴い、救助資器材の更新、充実強化に今後さらなる予算が必要になる可能性がある。			今後の実施計画 の方向性・内容	
					継続	
					引き続き事業を着実に進める。	

8	所管 室課	警防救急室	事業名	警防事業			
事業概要							
警備活動、消防車両整備、消防装備品整備							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
法令や指針等に定められた機器の点検整備、資格の習得等、適切に警防活動が実施できるよう計画実施し、迅速な対応が求められる消防業務に支障をきたすことなく、常に適切な消防力を維持した。			決算額 (千円)	122,140	114,823	116,806	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率(%)	99.6	99.5	99.5	☐ 有効性 ☐ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				■ 公平性 ■ 持続可能性
			多種多様な災害対応に向けた訓練・研修等により、職員の知識と技術向上を図る。 国の安全管理体制の見直しや消防行政へのニーズに対応するべく、限られた財源の中で必要な装備品を整備している。 消防車両は特殊機装が施されており、修理が必要な場合は費用が高額となるため、今後も予算編成と連携させ消防力の維持に努める。				今後の実施計画 の方向性・内容
							継続
				引き続き、予算編成と連携させ、消防力の維持に努める。			

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	213	施策	消防・救急救命体制の充実
管理事業	消防事業	所管部局	消防本部

9	所管 室課	警防救急室	事業名	消防車両更新事業			
事業概要							
消防車両更新							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【消防車両更新】 車両更新計画に基づき、老朽化した更新対象車両を更新。 ・令和3年度：更新対象車両19台の内3台を更新。 （救急車1台・救助工作車1台・小型タンク車1台） ・令和4年度：更新対象車両24台の内5台を更新。 （救急車1台・司令車1台・小型タンク車2台・ポンプ車1台） ・令和5年度：更新対象車両27台の内3台を更新。 （救急車2台・ポンプ車1台） 新規車両1台を配備。 （救急車1台）			決算額 （千円）	217,382	163,803	168,192	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率(%)	30.6	32.6	28.4	☐ 有効性 ☐ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				☐ 公平性 ■ 持続可能性
			新規感染症の流行、戦争、車両認証不正による車両製造停止及び車両安全装置の見直し等多岐影響により、機装車両の確保が困難となっているため、早期受注可能な準備に努める。 未更新車両が蓄積しており、老朽化車両による警防事業及び非常災害時の活動への影響も危惧されるため、国の補助事業を活用しながら、今後も引続き適切な車両更新に努める。				今後の実施計画 の方向性・内容
							継続 引き続き、消防力の 充実のため適切な消防 車両更新に努める。

10	所管 室課	警防救急室	事業名	消防防災施設等整備事業			
事業概要							
防火水槽整備、可搬式小型動力ポンプ整備							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【耐震性防火水槽整備事業】 ・令和3年度：整備なし。 ・令和4年度：ひらど遊園に40㎡1基及び榎阪大池公園に100㎡1基を設置した。 ・令和5年度：東御旅公園に60㎡1基及び広芝公園に100㎡1基を設置した。 【可搬式小型動力ポンプ整備事業】 ・令和3年度：新芦屋下公園内に1台整備した。 ・令和4年度：榎阪大池公園内に1台整備した。 ・令和5年度：王子公園内に1台整備した。			決算額 (千円)	1,758	62,361	57,622	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率(%)	48.8	2.2	2.8	☐ 有効性 ☐ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				■ 公平性 ☐ 持続可能性
			両事業ともに、各地域における有用性を必要とする一方で、設置には一定の公共的スペースを必要としており、設置場所の確保及び設置方法を検討する必要があるため、計画どおりの進捗が難しい場合がある。				今後の実施計画 の方向性・内容
							継続
					引き続き、事業を着 実に進める。		

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	213	施策	消防・救急救命体制の充実
管理事業	消防事業	所管部局	消防本部

11	所管 室課	指令情報室	事業名	指令調査事業			
事業概要							
指令調査、救急安心センター運営、消防通信指令事務共同運用							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【出動実績】 指揮支援隊、調査隊あわせて199件（令和5年中）の出動実績。			決算額 （千円）	93,994	126,946	381,470	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
【救急安心センターの利用実績】（令和5年中） 府下全体の利用件数 325,419件 吹田市内からの利用件数 13,433件			一般財源 の 比率（%）	74.0	51.5	22.7	■ 有効性 ■ 効率性
【消防通信指令事務共同運用】（令和5年中） 吹田市・摂津市合わせて40,047件の119番通報を受信し災害対応等を行った。			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題			☐ 公平性 ☐ 持続可能性	
(内訳)			消防通信指令事務共同運用では他市と 共同運用することで費用面の節減効果を 目指すとともに、消防力の効果的運用に よる市民サービスの向上を図っている。 令和5年度までは摂津市と実施し、令和 6年度からは豊中市、池田市、箕面市も 加えて実施する。救急安心センター運営 事業では事業参画前と比べ指令センター への直接相談も激減しており、一定の効 果が見られる。今後も救急車の適正利用 等を踏まえ、救急安心センターを広く市 民へ広報していく必要がある。			今後の実施計画 の方向性・内容	
119受信件数			吹田市 32,401件	摂津市 7,646件	両市計 40,047件	継続	
吹田市災害発生件数						引き続き、事業を着 実に進める。	
火災			36件				
救助			314件				
警戒			1,679件				
救急			23,149件				
合計			25,178件				

	所管 室課		事業名			
事業概要						
活動実績		年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
		決算額 (千円)				※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
		一般財源 の 比率(%)				☐ 有効性 ☐ 効率性
		事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題			☐ 公平性 ☐ 持続可能性	
					今後の実施計画 の方向性・内容	

上記以外の予算事業

※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名